



### 3 花 き

項 目	作 業 内 容
<p>(1) デルフィニウムの定植</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デルフィニウムの定植</li> <li>○12月出荷用オリエンタル系ゆりの定植</li> <li>○ばらの栽培管理</li> <li>○シクラメンの栽培管理</li> <li>○台風対策</li> </ul> <p>デルフィニウムの定植は、中山間地を除き、9月中旬～11月上旬が適期となる。9月中旬～10月上旬定植はハウス内温度が高いため、定植10日前にはハウスを寒冷紗で被覆し、2～3日前には定植床全体を十分かん水して地温の低下を図る。定植するセル苗は、夜冷育苗のため、夕方からハウス内で管理し、馴化させる。</p> <p>セルから抜き取った苗の根鉢を乾かさないう注意し、生長点が土に埋もれないように浅植え気味に抵触する。定植後は十分かん水して活着を促進するが、土壌表面に常に水分がある状態では根の張りが浅くなるため、活着してからは土壌表面が乾いてからのかん水とする(写真1)。</p>  <p>写真1 定植後の「さくらひめ」</p> <p>(2) 12月出荷用オリエンタル系ゆり</p> <p>オリエンタル系ゆりを12月に出荷するには、氷温貯蔵球を9月に定植する。定植前には、10～15℃で3日間程度馴化処理を行う。その後、上根の伸長を促進し、葉焼け症の発生を回避するために、プレ・ルーティング処理(具体的な方法は8月の農作業を参照)を必ず実施してから植え付ける(写真2)。</p>  <p>写真2 プレ・ルーティング処理終了時の球根</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(3) ばらの栽培管理</p>	<p>栽培ほ場は、排水が良好で有機質に富む土壌が好適ある。土壌のpHが高いと鉄欠乏症が発生しやすいため、pHは5～6に調整する。</p> <p>定植前には遮光率40～70%の寒冷紗で被覆し、地温の低下を図る。</p> <p>定植は日中を避けて、朝夕の涼しい時間帯に行く。植付けは上根が十分に張れる深さが必要で、少なくとも10cmは覆土する。定植後はかん水し、地温上昇と過乾燥防止のため稲わらマルチを敷設する(写真3)。</p> <p>オリエンタル系ゆりは、日照不足によるブラスチング(花飛び)はほとんど問題とならないため、植付け後も出蕾までは照度3～5万lx程度まで遮光して切り花品質の向上を図る。</p> <p>ばらの施設栽培では、寡日照後の高温と強日射により葉焼けを起こしやすい。また、花蕾の発達後期に35℃程度以上の高温に遭遇するとブルヘッド(奇形花)が多発する。</p> <p>対策としては、換気に努めるとともに、寒冷紗やアルミ蒸着ネット等を日中高温時の数時間展張し、室温低下を図ることが挙げられる。遮光は、日射しが強くなる時間に開始し、打切り時間は日の長さに応じて徐々に短くする。</p> <p>日照時間が短くなる、または天候不順により日照量が低下するとシュート(新梢)の発生が少なくなる。株元のロゼット枝や弱小なブラインド枝を切除し、光が十分に当たるように枝を整え、切り花本数の確保に努める。</p> <p>(4) シクラメンの栽培管理</p> <p>9月は花芽が継続して分化し、分化後の花芽は急速に発達する。また、気温の低下とともに生育が旺盛となり株も大きくなる。</p> <p>肥培管理は、チッ素：リン酸：カリを2：1：3程度の液肥施用とし、9月上旬からチッ素濃度で50mg/L(ppm)、その後徐々に上げて開花期以降(10月頃)は75～100mg/L(ppm)で管理する。</p>



写真3 地温上昇防止のための稲わらマルチ

項 目	作 業 内 容
(5) 台風対策	<p>遮光は、日射しが強くなる時間に開始し、打切り時間は日の長さに応じて徐々に早め、日中の気温が 30℃以上にならない程度で最小限にとどめる。</p> <p>夏季の高温が長引くと栄養生長が続き、生殖生長に切り替わらないことで花芽の発達が遅れる。年末開花に間に合いそうになければ、ジベレリン処理で開花を促進する。処理時期は9月上旬、濃度は1 mg/L (ppm)である。</p> <p>幼葉の生長と花芽の充実、花首の徒長防止、さらに鉢のバランスを良くするために、この時期から最低月1回は葉組みを行うとともに、病害の発生源となる枯れ葉を除去する。ただし、葉組みは最初から強く行うと葉や葉柄にストレスを与え、高温に耐えきれず枯れ込む可能性があるため、葉組み程度は徐々に強くしていく。</p> <p>台風情報に注意し以下の対策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の周辺に防風網を設置して、風当たりを弱める。</li> <li>○被覆資材の破損箇所を補修するとともに、ハウスバンドを締め直す。</li> <li>○パイプハウスは竹材や直管で筋交いを入れ補強する。</li> <li>○露地は畝間に水が停滞しないよう排水溝を整備する。また、支柱を補強しネットを引き上げ、倒伏の軽減を図る。</li> <li>○採花期に達しているものは、事前にできるだけ採花しておく。</li> </ul>

(作成 農林水産研究所)